



津 奈 木 町

TSUNAGI TOWN

総合防災マップ

Comprehensive disaster prevention map

あなたの大切な人を守るために
備えておいてください

津奈木町WEB版ハザードマップ

右のQRコードよりご覧いただけます。



総合防災マップの使い方

はじめに

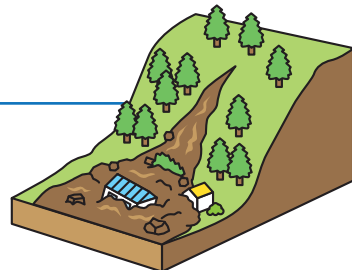
ハザードマップとは、洪水・津波・土砂災害などの自然災害の被害履歴に基づき、想定される災害リスクをわかりやすく表現した地図です。ハザードマップを活用し平時より防災意識を養う必要があります。

ステップ

1

地域の危険な区域を確認しましょう

各種ハザードマップから、お住まいの地域にどのような危険性があるか確認しましょう。大雨・台風時にはどの河川の氾濫により浸水するか、高潮の影響を受けやすいか、地震時には津波の影響を受けるおそれがあるかなどの確認が必要です。



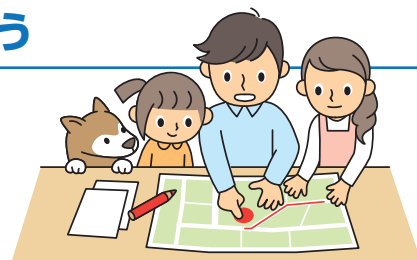
ステップ

2

避難経路や避難方法の確認をしましょう

災害発生に備え、避難経路や避難方法を予め確認しておくのがよいでしょう。災害の状況やあなたの置かれた状況によって、命を守るための避難行動（避難タイミングと避難先）は異なります。大雨・台風、津波の災害ごとに命を守るための避難行動を確認しましょう。

また、実際に避難経路を歩いて、いざというときにスムーズに避難できるようにしましょう。



ステップ

3

命を守るために日頃からの備えを確認しましょう

災害時には様々な情報が発信されます。いざというときにすぐ行動できるよう、掲載している情報や、マイタイムラインを活用し、日頃から備えておきましょう。



総合防災マップ記載のハザード情報

《浸水想定区域(最大規模)とは》

- ①この防災マップの浸水想定は、指定河川について水防法の規定により指定された想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域が浸水した場合の想定水深を表示。(概ね 1000 年に 1 度の大雨 (48 時間の総雨量 674mm) が降った場合を想定)
- ②この洪水浸水想定区域図は、指定時点の津奈木川水系及び小津奈木川の河道及び洪水調整施設の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により津奈木川水系及び小津奈木川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測。
- ③シミュレーションの実施にあたっては、支流の氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫は考慮していません。この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

《土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域とは》

- ①土砂災害危険箇所を対象に土砂災害防止法に基づく詳細な調査を行い、土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域に指定した箇所を掲載しています。
- ②土砂災害警戒区域内では、警戒避難体制の整備等が図られます。また、宅地建物取引においては区域内である旨について重要事項説明を行うことが義務付けられています。土砂災害特別警戒区域内ではさらに特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制、建築物の移転勧告等が図られます。

くまもとマイタイムラインシート

【家族の連絡先や行動】 ※避難する時に一緒にいないことも想定して書いてください。

名 前	携帯電話番号	自宅以外の主な滞在場所(職場・学校など)	電話番号	もしものときの合流場所・連絡方法など

【避難の準備】 ※あらゆる災害を想定し、日ごろから準備しておきましょう。

①避難する時の服装

	安全で動きやすい服装を一つにまとめておく(寒い時期は、防寒対策も十分に行う)
	リュックなどの両手が自由に使える持ちやすいバッグを選ぶ
	大雨で道路や歩道が浸水している場合に備えて運動靴を選ぶ(長靴は水が中に入ると歩きにくくなる)

②避難する時の持ち出し品 ※基本的な品目をチェックし、各自で追加・削除してください。

現金	通帳・印鑑	健康保険証	免許証
懐中電灯／ランタン	乾電池／バッテリー	携帯電話充電器	(ウェット)ティッシュ
飲料水	食料(保存食など)	下着・衣類	靴
防寒着	毛布／寝袋	タオル	眼鏡・コンタクト保存液
薬・お薬手帳	ハブラシ	生理用品	マスク
マイナンバーカード			

③備蓄品リスト ※基本的な品目をチェックし、各自で追加してください。

保存食	インスタント食品	飲料水	給水ポリタンク
紙皿・紙コップ	ラップ	割り箸	ビニール袋
(ウェット)ティッシュ	タオル	簡易トイレ	

【地震と津波の避難行動】

平 時 の 備 え	【防災訓練】 ____月____日____ 訓練に参加
	【避 難 先】 地震と津波の避難先を次表の「避難開始」の下にそれぞれ記入
	【避難準備】 上記の避難する時の「服装」「持ち出し品」「備蓄品」を準備

いつ起きるか わからない 地震発生(強い揺れ)

発生後
津波や
地震活動
に備える

★3つの安全確保行動(まず低く・頭を守り・動かない)
・一緒にいる人の安否確認

(津波浸水想定区域にお住まいの方)

津波警報・大津波警報の発表

◎避難開始(とにかく安全な場所へ)

※津波到着まで時間がある場合は、
避難先: _____ へ(_____ 分)

※津波到着まで猶予がない場合は、
緊急避難先: _____ へ(_____ 分)

<自宅が損壊した(損壊するおそれがある)場合>

◎避難開始

避難先: _____ へ(_____ 分)

くまもとマイタイムラインシート

家族構成	人(一緒に避難: 人)	自宅の災害リスク
------	-------------	----------

	避難先の名称(施設など)	移動時間	対象とする災害(○を付ける)							
			洪水	内水	土砂	高潮	地震	津波	火山	その他
避難先①		分								
避難先②		分								
緊急避難①		分								
緊急避難②		分								

わたしと家族の避難行動

平 時 の 備 え	【避難訓練】 月 日 訓練に参加
	【防災情報】
	【避難準備】 裏面の避難する時の「服装」「持ち出し品」「備蓄品」を準備
	【その他】
警戒レベル 1	(2~3日前) 早期注意情報 (警報級の可能性)
警戒レベル 2 	(気象状況が悪くなる) 大雨・洪水注意報／ ^{はん らん} 氾濫注意情報 ※高潮と火山のリスクがある人と 台風の暴風で自主避難する人 (警戒レベル3相当情報を記入)
警戒レベル 3 	発表 時ごろ 大雨・洪水警報／ ^{はん らん} 氾濫警戒情報 (災害のおそれあり) 高齢者等避難 ☐ 避難スイッチ  (警戒レベル4相当情報を記入)
警戒レベル 4 	見込 時ごろ 土砂災害警戒情報／ ^{はん らん} 氾濫危険情報 (災害のおそれ高い) 避難指示 ☐ 避難スイッチ  【ポイント】 警戒レベル3(相当)の発表時間をメモし、夜間に警戒レベル4(相当)となる見込みの場合は、避難開始の時間を早める
警戒レベル 5 (発生後)	大雨特別警報、 ^{はん らん} 氾濫発生情報 (災害発生又は切迫) 緊急安全確保 ★もし、避難できていない場合は、緊急的に安全を確保できる場所や建物の2階以上に移動

防災対策&チェック

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

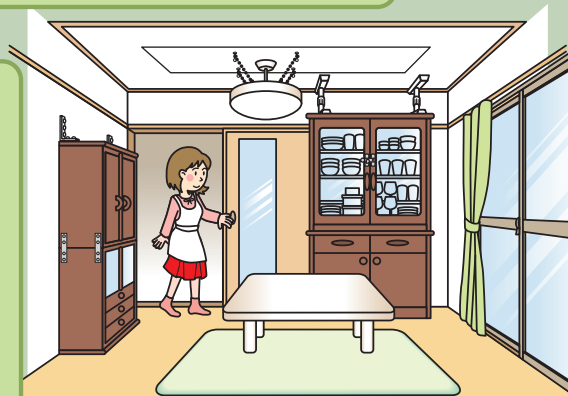
家の中の安全対策

家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。

家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を完全に。



安全に避難するため、出入口や通路にもものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

寝室、子どもや高齢者のいる部屋には家具を置かない

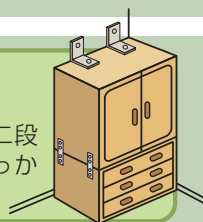
就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。



家具の転倒、落下を防ぐポイント

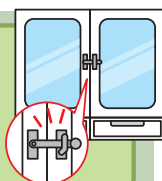
タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



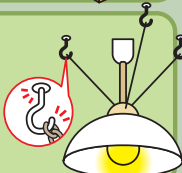
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふさんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



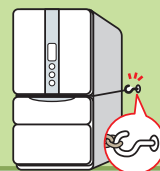
照明

チェーンと金具を使って数か所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



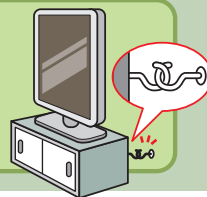
冷蔵庫

扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



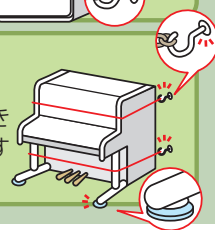
テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。



ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



家の周囲の安全対策

屋根

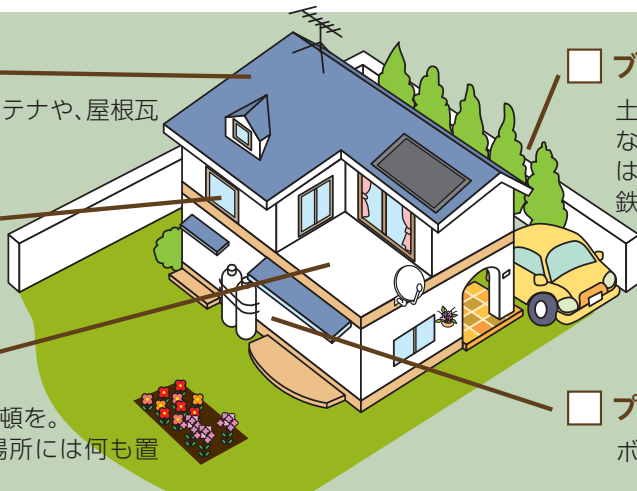
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。

ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。



ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

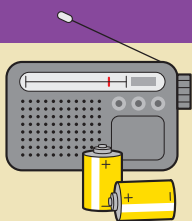
非常時持ち出し品の準備&チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。
事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

非常時持ち出し品（例）

携帯ラジオ

- ☐ ラジオ
- ☐ 電池
(多めに用意)



救急医療品

- ☐ 常備薬
- ☐ 傷薬
- ☐ 風邪薬
- ☐ 鎮痛剤
- ☐ 絆創膏
- ☐ 包帯
- ☐ 胃腸薬
- ☐ マスク



貴重品

- ☐ 現金
- ☐ 印鑑
- ☐ 健康保険証
- ☐ 預金通帳
- ☐ 免許証
- ☐ 権利証書



- ☐ マイナンバーカード

懐中電灯

- ☐ 懐中電灯
(できれば一人にひとつ)
- ☐ 電池
(多めに用意)



非常用食品等

火を通さなくて食べられるもの、食器など

- ☐ 非常用食品
- ☐ 缶切り
- ☐ 紙皿
- ☐ 缶詰
- ☐ ミネラルウォーター
- ☐ 栓抜き
- ☐ 紙コップ



その他

- ☐ 衣類(下着・上着など)
- ☐ 生理用品
- ☐ 離乳食
- ☐ ウェットティッシュ
- ☐ ヘルメット
- ☐ ラップフィルム
(止血や食器にかぶせて使う)
- ☐ 防災マップ(本書)

- ☐ タオル
- ☐ 粉ミルク
- ☐ 紙おむつ
- ☐ 雨具
- ☐ ライター
- ☐ 携帯電話の充電器



非常時用備蓄品（例）

災害復旧までの数日間(最低 3 日)を生活できるようにチェック☑しましょう。

飲料水

- ☐ 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター
(1人1日3リットルを目安に)
- ☐ 貯水した防災タンクなど



非常用食品

- ☐ お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利)
- ☐ 缶詰・レトルト食品
- ☐ 梅干し・調味料など
- ☐ ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)



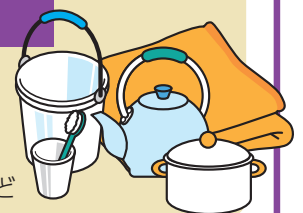
燃料

- ☐ 卓上コンロ
- ☐ ガスボンベ
- ☐ 固形燃料



その他

- ☐ 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- ☐ 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- ☐ 調理器具(なべ・やかんなど)
- ☐ バケツ・各種アウトドア用品など



定期!点検

非常時持ち出し品は定期的に点検を!

いざというときに支障がないように、食品類の賞味期限や持ち出し用品の不備を定期的に点検しましょう。

避難生活が長引くときに便利なもの

携帯トイレ、使い捨てカイロ、裁縫セット、ガムテープ、地図、さし、筆記用具(マジックなど)、スコップなど。



熊本地震で役に立ったもの

ポリタンク、ホイッスル、予備の眼鏡・補聴器、ブルーシート、新聞紙、補助用具としてロープ、スコップ、パールやハンマー、のこぎり、車のジャッキなど。

非常時持ち出し品は、使用するとき支障のないように、定期的に点検しておきましょう。とくに非常用食品や飲料水の賞味期限は早めにチェックし、賞味期限がせまったものから順に入れ替えておきましょう。

特別警報 をご存知ですか？

特別警報は、大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする新しい警報です。普段からの備えと早め早めの行動があなたや身近な人の命を守ります。

特別警報の 発表基準

現象の種類	基準
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合
暴風	暴風が吹くと予想される場合
高潮	高潮になると予想される場合
波浪	高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合

※表中の“数十年に一度”の現象に相当する降水量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。

大津波警報 などを 特別警報に 位置づけます

現象の種類	基準
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合 (噴火警報(居住地域)又は噴火警報(噴火警戒レベル4または5)を特別警報に位置づける)
地震 (地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合 (緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)

特別警報が発表されたら

- ◆尋常でない大雨や津波などが予想されています。
- ◆重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ◆直ちに身を守るために最善を尽くしてください。

命を守るために情報の収集に努めてください

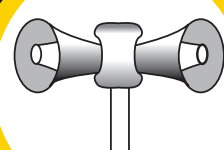
特別警報は、自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビ・インターネット・自治体から発信される情報の収集に努めてください。



テレビ・ラジオ



インターネット・
気象庁ホームページ



有線放送・広報車

「特別警報が発表されない」は
「災害が発生しない」ではありません。
特別警報が発表されないからといって
安心することは禁物です。

「特別警報」については、気象庁ホームページに詳細が掲載されていますので、ご確認ください。

気象庁

気象庁ホームページ <https://www.jma.go.jp/jma/index.html>

特別警報について <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/tokubetsu-keiho/>



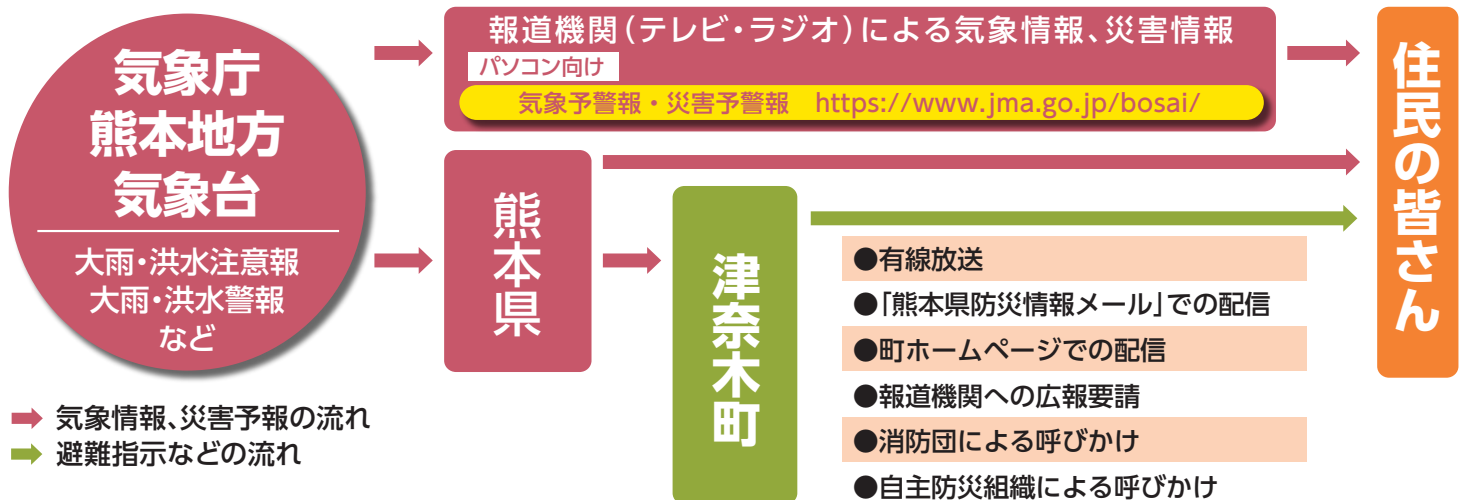
携帯・スマートフォン用
QRコード

防災対策

町では、皆さんの生命に危険が及ぶと判断した場合、警戒レベル3から警戒レベル5を発令し、皆さんに避難を促します。
避難指示などを発令するときは、さまざまな状況を総合的に判断して発令します。

気象情報・防災情報などの流れ

災害に関する注意報や警報が発表されたら、町からの情報に注意してください。



警戒レベルと避難のタイミング

警戒レベル	状況	住民が取るべき行動	行動を促す情報
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保 (※1)
~~~~~ <警戒レベル4までに必ず避難!> ~~~~~			
<b>4</b>	災害の おそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示
<b>3</b>	災害の おそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難 ※2	高齢者等避難
<b>2</b>	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
<b>1</b>	今後気象状況 悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない

※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人にも必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングである



# 自主防災組織

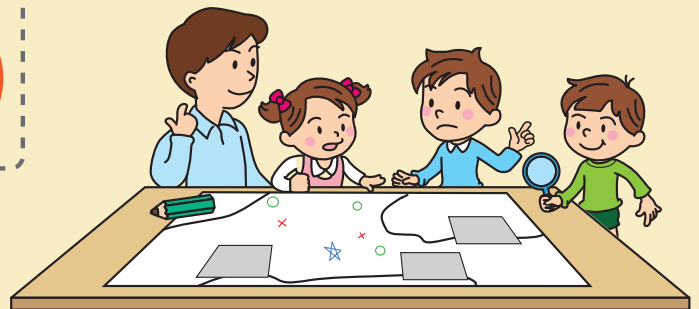
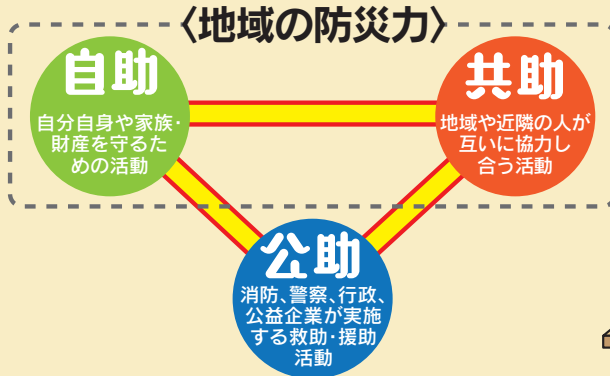
## 災害に強い地域をつくりませんか？

### 地域の防災力

災害発生時には、自助・共助・公助の連携により人的・物的被害を軽減することができます。

ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関が行う活動（公助）は交通網の寸断や同時多発火災などにより十分対応できない可能性があるため、個人の力で災害に備える（自助）とともに、地域での助け合い（共助）による地域の防災力が重要となります。

災害に強い地域づくりを目指して、災害時の被害を軽減するため、「自主防災組織」活動を通じて、共助の強化、地域の防災力の強化に向けた取り組みを始めてみませんか？



### 1. 自主防災組織とは？

- 災害発生時にはもちろん、日頃から地域の皆さんが一緒になって防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」と言います。
- 平常時には防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出救護、集団避難、避難所への給食給水などの活動を行います。



### 2. なぜ、自主防災組織が必要なの？

- 大規模な災害が発生した場合、消防署などの防災機関だけでは、十分な対応ができない可能性があります。  
このような時、地域の皆さんが一緒になって協力し、災害や避難に関する情報の伝達、避難誘導、安否確認、救出・救護活動に取り組むことで被害の軽減を図る事ができます。また、活動を迅速に進めるためには「お互いに顔の見える関係」の中で、事前に地域内で役割分担を決めておくことが有効です。  
より効率よく、さまざまな活動をするためにも事前の準備（＝体制づくり）が重要です。

○各班の日頃（平常時）と緊急時（災害発生時）の活動内容は概ね次のような役割になります。（例）

	情報班	消火班	避難誘導班	救出救護班	給食・給水班
平常時	○住民に対しての連絡体制、手段の検討     ○情報収集・伝達訓練の実施     ○防災意識の啓発、高揚に関する広報     ○公的防災機関との連携確保	○初期消火訓練の実施     ○消火用水の確保、確認     ○出火防止の啓発	○事前に避難路、避難場所を把握     ○避難誘導訓練の実施     ○避難路の安全点検     ※危険箇所（がけ、ブロック塀）などの確認等     ○避難行動要支援者の把握	○応急手当、衛生知識の普及     ○救命講習への参加     ○応急医薬品、救助資機材の確保・点検     ○技能、ノウハウを持った住民の把握     ○救助用資機材の確保・点検	○非常用食品、飲料水の個人備蓄についての普及啓発     ○炊き出し訓練の実施     ○炊き出し用資機材の確保・点検
緊急時	○災害情報を住民に対して正確かつ迅速に伝達     ○地域内の被害情報を収集し、本部へ報告     ○混乱回避、出火防止等の広報	○初期消火活動     ※消防署、消防団の到着までの延焼拡大を防ぐのが基本ですので無理はしないこと!!     ○情報班と連携しての出火防止等の広報	○情報班と連携しての避難の呼びかけ     ○安全な経路を選択しての避難誘導     ○避難行動要支援者の避難支援     ○避難地での安否確認     ○安否確認による救出救護班への情報伝達	○避難誘導班と連携しての速やかな救出     ※救出活動は危険を伴う場合があるため、二次災害に十分注意して下さい。     ○負傷者の搬送、応急手当の救護     ○避難所・救護所での救護活動への協力	○食料や水、救援物資等の受入、配布     ○必要に応じて炊き出し

# 地震

## 地震発生時の時間経過別行動マニュアル

**地震発生**

**1~2分**

### 最初の大きな揺れは約1分間

- ◆まず、身を守る安全確保 手近な座布団などで頭を保護
- ◆すばやく火の確認 ガスの元栓、コンセント
- ◆大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する

### 揺れがおさまったら

- ◆火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- ◆家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- ◆靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- ◆避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等に注意
- ◆津波などの危険が予想される地域はすぐ避難

### みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

**隣近所に  
声をかけよう**

- ◆避難行動要支援者の安全確保 隣近所で助け合う
- ◆行方不明者はいないか ◆ケガ人はいないか

**出火防止  
初期消火**

- ◆初期消火 消火器を使う バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
- ◆漏電・ガス漏れに注意 ◆電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める ◆余震に注意

**3分**

**5分**

**10分**

**数時間**

**3日**

### ラジオなどで正しい情報を得る

- ◆救出・救護を
- ◆町や防災機関、自主防災組織の情報を確認
- ◆デマにまどわされないように ◆電話は緊急連絡を優先する

### 協力して消火活動、救出・救護活動

- ◆水、食料は蓄えているものでまかなう 3日間の飲料水と非常用食品の備蓄をしておく
- ◆災害・被害情報の収集 ◆無理はやめよう
- ◆助け合いの心が大切 ◆壊れた家に入らない

## 屋内にいた場合

### ◆家の中

- ◆揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- ◆火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- ◆高齢者等の避難行動要支援者の安全を確保する。
- ◆裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

### ◆集合住宅

- ◆ドアや窓を開けて避難口を確保する。避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

### ◆デパート・スーパー

- ◆カバンなどで頭を保護しショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

### ◆劇場・ホール

- ◆カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。
- ◆あわてずに冷静な行動をとる。



## 屋外にいた場合

### ◆路上

- ◆その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- ◆近くに空き地などがなければ、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ◆ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- ◆倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

### ◆車を運転中

- ◆ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- ◆揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- ◆避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

### ◆海岸付近

- ◆高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。



### ◆電車などの車内

- ◆つり革や手すりに両手でしっかりとつかまる。
- ◆途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- ◆乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



# 洪水・土砂

大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

## 川の氾濫

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

### 外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



### 内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



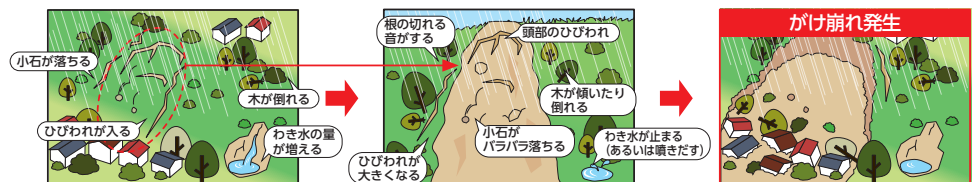
## 土砂災害

土砂災害警戒情報は、大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、土砂災害発生の危険度がさらに高まったときに熊本県と熊本地方気象台が共同で発表しています。

土砂災害の危険がある地域にお住まいの方は、特に早めの避難が重要ですので、土砂災害警戒情報を避難の参考にしてください。土砂災害警戒情報が発表されていなくても、下の図のような土砂災害の前兆に気づいた場合には、直ちに周りの人と安全な場所に避難し、津奈木町役場までご連絡ください。

### がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



### 土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



### 地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



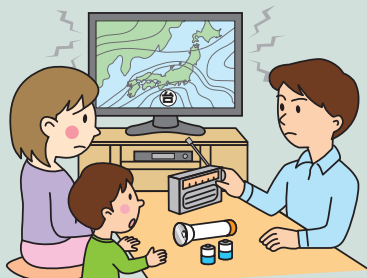
※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。



# 風水害・台風

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。  
普段から気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

## 大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。



まずは、確実な情報が大事  
その次に迅速な対応

### 大雨注意報

大雨による土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想したときに発表

### 大雨警報

大雨による重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想したときに発表

### 大雨特別警報

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合に発表

■記録的短時間大雨情報とは・・・数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測したり、解析したりしたときに、各地の気象台が発表します。  
熊本県区域の発表基準は、1時間雨量110mmとなっています。

## 雨の強さと 降り方

時間雨量 (mm)	10 以上～20 未満	20 以上～30 未満	30 以上～50 未満	50 以上～80 未満	80 以上～
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る。	どしゃ降り。	バケツをひっくり返したように降る。	滝のように降る。 (ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような 圧迫感がある。恐怖を感じる。

## 風の強さと 吹き方

平均風速 (m/秒)	10 以上～15 未満	15 以上～20 未満	20 以上～25 未満	25 以上～30 未満	30 以上～
予報用語	やや強い風	強い風	非常に強い風		猛烈な風
人への影響	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業は極めて危険。	何かにつかまってないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。		屋外での行動は極めて危険。

## 台風の大きさと 強さ

台風は、毎年のように日本に襲来し、極めて大きな災害をもたらすことがあります。  
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速 15m/秒 以上の半径	強さ	最大風速
大型 (大きい)	500km 以上～800km 未満	強い	33m/秒 以上～44m/秒 未満
超大型 (非常に大きい)	800km 以上	非常に強い	44m/秒 以上～54m/秒 未満
		猛烈な	54m/秒 以上

## 集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。  
発生の予測は困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や非常用食品を数日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持ち出し品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに  
気象情報には、  
注意して  
おきましょう！



# 避難について

## 避難のポイント

発生する災害種別に対して立退き避難が必要な場合には、町が指定した当該災害に対応した指定緊急避難場所への避難や、安全な場所にある親戚・知人宅への避難が考えられます。あらかじめ相談しておきましょう。ただし、既に周辺で災害が発生している場合など、立退き避難がかえって命に危険を及ぼしかねないと自ら判断する場合は、「近隣の安全な場所」への避難や、少しでも命が助かる可能性の高い避難行動として、「緊急安全確保」を行います。

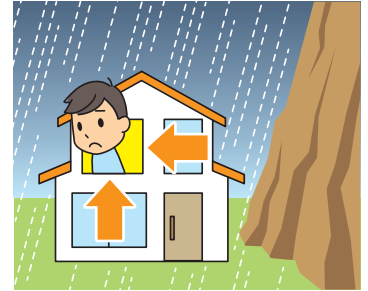
### 近隣の安全な場所

指定緊急避難場所ではないが、近隣のより安全な場所・建物等立退き避難が必要な場合は想定される災害に対応した指定緊急避難場所への避難や、安全な場所にある親戚・知人宅への避難を検討。



### 緊急安全確保

その時点で居る建物内において、より安全な部屋等への移動。既に周辺で災害が発生している場合など、立退き避難がかえって危険な場合は、近隣の安全な場所や建物のより安全な部屋等へ移動。



## 避難時の注意

### ●情報の確認

雨や台風などの状況を、テレビ・ラジオ・インターネットなどで確認し、最新の気象情報や避難指示等に関する情報を入手しましょう。



### ●防災責任者の指示に従う

避難のときは警察・消防・地元の防災責任者などの指示に従って行動しましょう。独断での行動は大変危険です。



### ●隣近所への呼びかけ

お年寄りや子供、病気の人などは早めの避難が必要です。近所のお年寄りや子供、病気の人などの避難に協力しましょう。情報伝達や避難場所をとりまとめておくとう便利です。



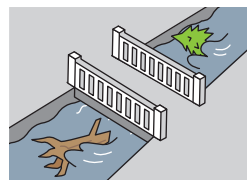
### ●車での避難は危険

自動車が水に浸かると動かなくなったり、水圧で扉が開かなくなったりして大変危険です。自動車での避難は特別の場合を除きやめましょう。



### ●橋や川の近くは危険

川が増水している場合には、川の流が速く、橋が壊れたり流されたりして非常に危険ですので、近寄らないようにしましょう。



### ●動きやすい服装、集団での避難

避難するときは、動きやすい格好で、二人以上での行動を心がけましょう。



### ●避難時の歩き方

避難中はできるだけ浸水していない場所を歩きましょう。浸水している場合には下水道のマンホールや側溝等への転落のおそれがあり危険ですので注意しましょう。



# 避難所の利用について

避難所では限られたスペースでの共同生活となりますので、マナーやルールを守ることが大切です。避難者同士のプライバシーを守りながら、譲り合いの心を持って助け合い、協力、配慮が必要です。

## 共同生活の注意点

### 所持品

- ◆避難所には多くの人が避難してこられます。トラブルにならないよう所持品に名前を書きましょう。
- ◆避難所の中から避難しなければならない場合があります。所持品は、1箇所にとめて、すぐに持ち出せるようにしましょう。



### ルール

- ◆大災害の際は、町職員やボランティアが不足する場合があります。炊き出し、救援物資の受け取り、防犯対策、トイレ掃除など、共同生活に必要な役割は、みんなで協力しましょう。
- ◆水道が使えない場合は、飲み水や生活用水の確保が必要です。給水ポイントのお知らせや給水車が到着するまで大切に使いましょう。
- ◆障がいのある人や高齢者、妊産婦などには、手助けをしましょう。
- ◆居住スペースは、個人の家と変わりません。要配慮者や乳幼児のいる家庭には気を配る必要がありますので、個人のプライバシーは守りましょう。
- ◆ゴミは分別し、所定の場所へ持っていきましょう。ゴミには封をして、害虫の発生を防止しましょう。
- ◆避難所のトイレは多くの方が使用しますので、トイレトイレットペーパーが詰まる可能性があります。トイレを流す際にルールがある場合は、そのルールを守りましょう。
- ◆避難所は完璧な居住空間ではありません。自分の身は自分で守ることを心がけ、不審者を見つけたら、警察や町職員又は、避難所の管理者、リーダーに連絡しましょう。
- ◆避難所から別の場所へ移動するときは、必ず避難所にいる町職員及び管理者等に一声かけてください。
- ◆避難所は禁酒となります。



### マナー

- ◆物資が支給される場合は、慌てず、列に並び、落ち着いて自分の順番を待ちましょう。列に並べない要配慮者への気配りも必要です。物資が少ない場合は、ひとり分を複数人で分ける場合もあります。
- ◆掃除は定期的に行い、清潔な状態を保ちましょう。室内は土足厳禁とし、布団を敷くスペースと通路を分けましょう。
- ◆喫煙は、火災防止や受動喫煙防止のため、所定の場所で行いましょう。
- ◆避難所にはペットが苦手な避難者もいます。ペット同伴の方は、飼い主が責任を持って世話をいしましょう。



### 食中毒

- ◆食中毒は1年中発生します。調理・盛り付けの前、食材に触った後、トイレの後には石鹸で十分に手を洗いましょう。
- ◆食器、調理器具にも注意が必要です。使用後や作業が変わるたびに洗浄と消毒を行いましょう。水が使えないときは、使い捨て容器にラップを敷いて使う方法もあります。



### 感染症 コロナ対策

- ◆避難所は集団生活の場となりますので、風邪やインフルエンザなどの感染症が流行しやすくなります。
- ◆予防対策としては、3密（密閉・密集・密接）を避けこまめにうがいや手洗いや手指消毒を行い、必ずマスクを付けましょう。排泄物やおう吐物の処理には、必ず使い捨て手袋とビニール袋を使用してください。
- ◆発熱、下痢など体調のすぐれない方は早目に係にお知らせ下さい。



### 体調 管理

#### 【エコノミークラス症候群】

長時間足を動かさないでいると足の静脈に血栓（血の塊）ができ、歩き出した後などに血栓の一部が血流に運ばれて肺や脳の血管をふさいでしまう病気となります。予防対策としては、体を動かしましょう。座ったままでも足や指のつま先を動かすなど足の運動をしましょう。十分な水分をとり、脱水症状にならないようにしましょう。

#### 【熱中症】

猛暑などで高い温度が長く続き、発汗して水分や塩分を失われる状態や湿度が高い時期に汗が蒸発しないため、体内の熱がこもったまま放出されない状態において、めまい、筋肉痛、頭痛、吐き気、失神、けいれんなどを起こす症状です。予防対策としては、水分をこまめにとりましょう。塩分もほどよくとりましょう。涼しい服装に心がけましょう。室内でも温度に注意しましょう。日陰を利用しましょう。日傘や帽子を使いましょう。





# 避難所一覧

## 避難所の種別

**指定緊急避難場所** ▶ 災害の危険から命を守るために緊急的に避難をする場所です。

**指定避難所** ▶ 災害の危険に伴い避難をしてきた人々が一定期間滞在する場所です。

**福祉避難所** ▶ 高齢者・障がい者・妊産婦・乳幼児・病者等、一般的な避難所では生活に支障を来す人たちのために、何らかの特別な配慮がされた避難所で、必要に応じて開設されます。

### 指定緊急避難場所 ※状況により変更有り

NO	施設・場所名	住 所	対象とする異常な現象の種類					想定 収容人数	MAP座標
			土砂	洪水	地震	津波	高潮		
1	つなぎ文化センター	津奈木町大字岩城1588番地2	●	●	●	●	●	500	4-F-5
2	津奈木小学校	津奈木町大字岩城1470番地	●	●	●	●	●	300	6-F-1
3	津奈木中学校	津奈木町大字岩城425番地	●		●	●	●	300	4-F-4
4	農業就業改善センター	津奈木町大字小津奈木2123番地	●	●	●	●	●	300	4-D-4
5	B&G 体育館	津奈木町大字小津奈木2114番地9	●		●			300	4-D-4
6	赤崎漁村センター	津奈木町大字福浜627番地2	●		●			200	2-C-5
7	旧赤崎小学校	津奈木町大字福浜165番地	●		●			300	2-B-5
8	旧平国小学校	津奈木町大字福浜3503番地	●		●	●	●	300	2-E-1
9	平国コミュニティセンター	津奈木町大字福浜3496番地13	●		●			200	1-B-5
10	福浦公民館	津奈木町大字福浜4695番地31	●		●			80	1-D-4
11	日当高台（町道辻線）					●	●	—	2-C-4
12	日添高台（広域農道）					●	●	—	2-C-5
13	福浦高台（県道）					●	●	—	1-C-4

### 指定避難所

NO	施設・場所名	住 所	災害対策基本法施行令 第20条の6第5号に規定する 指定基準を満たすものであるか	想定 収容人数	MAP座標
1	つなぎ文化センター	津奈木町大字岩城1588番地2	●	500	4-F-5
2	農業就業改善センター	津奈木町大字小津奈木2123番地	●	300	4-D-4

### 福祉避難所

NO	施設・場所名	住 所	電話番号	MAP座標
1	つなぎ文化センター	津奈木町大字岩城1588番地2	0966-78-3096	4-F-5
2	あけぼの苑	津奈木町大字岩城1520番地	0966-78-4070	6-F-1
3	つなぎの里	津奈木町大字小津奈木2120番地62	0966-78-2023	4-C-5